

葬送儀礼(葬儀)について 4

仏教徒となるための最小限の五戒

1, 不殺生戒 ふせっしょうかい

生きているものを殺さない

2, 不偷盜戒 ふちゅうとうかい

自分に与えられていないものを取らない

3, 不邪淫戒 ふじゃいんかい

妻以外の女性、夫以外の男性とみだらな行為をしない

4, 不妄語戒 ふもうごかい

嘘をつかない

5, 不飲酒戒 ふおんじゅかい

酒を飲まない

輪廻転生をとく仏教では生前の行いにより死後の行き先が決まる。

これを因果応報という。

十界のどこに生まれ変わるかが決定される。

十界は四聖六道 ししょうろくどうに分けられる。

四聖は迷いのない聖なる世界(仏界から声聞界まで)

六道は迷いの世界(天上界から地獄界まで)

以下その詳細

地獄界

梵語ナラカからきた「奈落」は地獄を表す。

犯した罪により八熱地獄、八寒地獄などがあり阿鼻叫喚、地獄の苦しみを味わう。

執行するのは鬼といわれる獄卒である。

餓鬼界

生前、ものへの執着心の強かった者、慢心している人が入る世界であり地獄の次に苦しみが多く満足することがない。

畜生界

地獄界・餓鬼界と並んで三悪道のひとつ。

この世で盗み、借りを返さないなどの悪業つくり、愚痴多く心身が浮上の人が入る世界。(仏教では人間以外の全てを畜生という)

阿修羅界

妄想にとりつかれた人、争いを好む人、度量の狭い人など寛容、慈悲の心を失った人が入る世界で争い事が絶えない。

阿修羅はもともと正義を司る神であるが天界から追放された。

阿修羅には舎脂(しゃし)という綺麗な娘がいたが帝釈天(神々の王)に奪われてしまった。

激怒した阿修羅は帝釈天に戦いを挑んだが勝ち目のない戦は幾度と無く続き、やがて執念の鬼と化した阿修羅は天界から追放される。

人間界

善業悪業ともに己の意思で行なうことができるが自業自得、因果応報の言葉があるように自分で責任を取らねばならない。

「朝(あした)には紅顔ありて夕(ゆうべ)には白骨となれる身なり
憂世のはかなきこと電光のごとく、日に消える朝露の如し」

天上界

六道の一番上の世界で快樂の世界。

東西南北を持国天・広目天・増長天・多聞天が護り寿命がすこぶる長い(92億千六百万年)

天界の一番上が有頂天で毎日が快樂の連続であるが調子に乗ると地獄に墮ちる。

天界を去る時は地獄の十数倍の苦しみを味わう。

ここにも終わりがあり因果は存在する。

以上が六道とされる。

この輪廻転生の世界から救い出してくれるのが仏の教え。

死者の魂が迷わないように引き導いてくれるのが引導であり僧侶の役目である。

十界の残り四聖界について

声聞界

声を聞くということは仏の教えを聞くということ。

悟りを得ることはできるが化他(けた)といって他の人を導く菩薩とは区別される。

縁覚界

仏から教えられること無く自然の移り変わりや十二因縁から悟りを開く人。

他の人は導かず、己の解脱のみを目的とする。

菩薩界

弥勒菩薩・観世音菩薩は既に成仏しているが仏様に頼まれて菩薩界にとどまっている。

我々、衆生に近づいて人々を救うために修行をなさってください。

観音さまは全て男である。

菩薩の道を現世において実践しているとされるのは僧侶である。

その役目は仏様にかわり人々を救うことだ。

菩薩の意味は悟りを求めて生きる者であり高僧の中には菩薩の尊称を与えられた者もいる。

仏界

仏国土、浄土ともいう。

阿弥陀仏の西方極楽浄土、釈迦牟尼仏の靈山浄土、薬師如来の東方浄瑠璃というように無数の仏様がおり、それぞれ浄土を持っている。

万物は全て仏になる性質を持っている。

これを一切衆生悉有仏性(いっさいしゅうじょうしつうぶつしょう)という。

我々は煩惱によりそれを邪魔されているがその煩惱を無くしてくれるのが仏の教えである。

ここ仏界は本当の意味で人生の目的であるとされている。

これらが十界であり因果の法則で成り立ち、自分が如何に生きたかで行き先が決まる。

悪人は仏の世界に行けないと決めつけるのも間違いだ。

死んだ人になり変わり生きている者が功德(くどく)を回し向け、これにより死者の罪を消す事ができる。

これを追善回向(ついぜんえこう)という。

多くの人に回向してもらい祈るという意味も葬儀にはある訳だ。

葬儀の曲友(かねとも) 札幌

<http://kanetomo.2lala.net>

曲友(かねとも)